



私たちのことは、私たちで

「ポジティブ女性のフォーラム」報告



Nothing About Us Without Us

A report from the HIV Positive Women's Forum

「HIV および AIDSに関する国際女性サミット」の一環で開催された、「ポジティブ女性のフォーラム」の記録。
(2007年7月、世界YWCA 総会。ケニア ナイロビにて)

私たちのことは、私たちで／NOTHING ABOUT US WITHOUT US

「ポジティブ女性のフォーラム」(Positive Women's Forum, PWF) 報告書

目次

謝辞、団体紹介	…3
代表あいさつ	…4
1. はじめに	…6
2. HIV ポジティブの女性をとりまく状況	…7
3. 「ポジティブ女性のフォーラム」の目的	…7
4. プログラムの概容	…8
4.1 計画と事前協議	
4.2 プログラムの構成	
4.3 各ワークショップのテーマ	
4.4 変革を導く女性賞	
5. HIV ポジティブの女性が抱える問題と課題	…9
5.1 女性のリーダーシップと経済的エンパワメント	
5.2 偏見と差別	
5.3 「性と生殖に関する健康と権利」を含む人権	
5.4 ジェンダーの不平等を是正するアドボカシー	
5.5 手に届く治療、ケア、支援へのアクセス	
6. 「ポジティブ女性のフォーラム」(PWF)の成果	…16
6.1 成果	
6.2 課題	
7. 参加者の意見や感想	…19
8. 結び	…20
参考 1: 2007 ナイロビ行動要綱	…21



謝辞

「ポジティブ女性のフォーラム」(Positive Women's Forum, PWF) とこの報告書は、多くの女性の努力と献身の成果です。力を貸してくださった皆さんに、世界 YWCA より感謝申し上げます。

「ポジティブ女性のフォーラム」の計画と実行にご尽力くださった、国際支援事務所駐在の「HIV および AIDS と共に生きる女性国際コミュニティ」(International Community of Women Living with HIV and AIDS、以下、ICW) のスタッフの皆さん、コミュニケーションチームのエマ・ポール、ルイザ・オルザ、スー・オサリバンに厚くお礼申し上げます。ICW 英国共同議長であるリズ・トレムレットとブレンダ・A・ティマならびにアリス・ウェルボーンより賜ったご支援に感謝いたします。当時、国際ネットワークング・マネージャーで PWF に多大な支援をしてくださったフィオナ・ペティとフィオナ・ヘイルに感謝申し上げます。

「ポジティブ女性のフォーラム」運営委員会のメンバーであるグラシア・ヴィオレタ・クイロガ、リンデ・フランシス、フィオナ・ペティ、リリアン・ムウォレコ、ドロシー・オディアンボ、アニタ・イサックス、エリカ・ナブクワンガ・ンデニヨ、ソフィー・ディルミティスの積極的な貢献に心から感謝申し上げます。

世界中のポジティブの女性が「ポジティブ女性のフォーラム」に参加できるように、資金を支援してくださった全ての寄付者の方々、および、フォーラム開催にお力添えくださった方々、ボランティア、司会者、パネリスト、世界 YWCA のスタッフの皆さんなくしては、「ポジティブ女性のフォーラム」開催は実現不可能だったでしょう。

この報告書は、世界 YWCA・HIV および AIDS 課題担当のソフィー・ディルミティス と編集担当のミシェル・ベグにより完成されました。報告書のスペイン語への翻訳を快く引き受けてくださったマリア・ホセ・ヴァスケスと翻訳補助のアナ・ヴィラヌエヴァに感謝します。この報告書を印刷してくださった Naturaprint/Mondofragilis Group の皆さん、ありがとうございました。

団体紹介

■世界 YWCA

世界 YWCA は世界最大の女性団体の一つで、125 以上の国で 2,500 万人以上の女性と少女が活動しています。世界 YWCA の目的は、全ての人のための人権・健康・安全・尊厳・自由・公正・平和を実現するために、世界中の女性や少女たちがリーダーシップをますます発揮できるようにすることです。世界 YWCA は、YWCA が持つ社会変革への力を再確認し、1999 年からは、アドボカシーやプログラム、パートナーシップ、そして資源を、HIV および AIDS 対策へ優先的に活用してきました。YWCA のグローバルな計画の中心にあるのは、HIV および AIDS をめぐる問題に対処するために、地域社会で女性や少女のリーダーシップを十分生かすことです。

www.worldywca.org

■「HIV および AIDS と共に生きる女性国際コミュニティ」(ICW)

ICW は、1992 年 7 月、オランダのアムステルダムで開かれた第 8 回国際エイズ会議に世界各地から出席していた HIV と共に生きる女性たちによって旗挙げされました。このとき、HIV ポジティブの女性は互いの体験や対処法を共有し、将来に向けて行動計画を立てました。その後 ICW は、HIV と共に生きる女性向けの支援や情報またサービスの極端な不足を解消し、HIV と共に生きる女性たちの意思や意見を政策立案過程に反映させる必要性に応える目的で、イギリスの登録慈善団体として設立されるに至りました。ICW は、HIV ポジティブの女性のための、HIV ポジティブの女性による唯一の国際ネットワークです。

代表あいさつ：「世界 YWCA と ICW ー強力なパートナーシップがもつ効果」

ムシンビ・カニヨロ世界 YWCA 総幹事、アリス・ウェルボーン ICW 共同議長

これまで世界 YWCA と ICW をそれぞれ率いてきたリーダーとして、世界 YWCA の依頼を受け、この報告書の序文を私たち二人が共同で執筆する機会に恵まれ、光栄に思います。「ポジティブ女性のフォーラム」は HIV および AIDS に関する女性のリーダーシップに重点を置いた「国際女性サミット」(International Women's Summit, IWS) の一環として、2007 年 7 月、ナイロビで開催されました。PWF と IWS は世界 YWCA と ICW が世界 YWCA 総会のもとで主催しました。こうした会合の開催は、行動する上での真のパートナーシップを示すものです。「ポジティブ女性のフォーラム」やそれに先立って行われた HIV ポジティブの女性との協議から、活気とエネルギーが生まれました。「ポジティブ女性のフォーラム」もこの事前協議も互いへの敬意に満ち、和やかに進められました。事前協議を通じて、ポジティブの女性には、「ポジティブ女性のフォーラム」で取り上げるべき課題を決定するだけでなく、協議においてリーダーシップを発揮する場が与えられました。「ポジティブ女性のフォーラム」は世界の女性がひとつのアジェンダのもとに集結した、最大かつ初の会合となりました。アジェンダとは、HIV および AIDS 対策で女性が発揮することのできるリーダーシップです。この報告書は、「ポジティブ女性のフォーラム」で達成され、それから IWS で活用された成果を明確に記録しています。是非とも IWS で発表された 2007 年ナイロビ行動要綱と合わせて、この報告書を読んで頂きたいと思います。2007 年ナイロビ行動要綱も世界 YWCA と ICW の協働が生んだ成果です。私、アリス・ウェルボーンが、多くの女性の意見を反映したこの行動計画の草案づくりの先頭に立ちました。(参考 1 を参照) 世界 YWCA 総会の下で開かれた「ポジティブ女性のフォーラム」と IWS の目的は、ICW や世界 YWCA、また女性のリーダーシップに重きを置く協力者や団体の将来の取組みに指針を示すことです。

私たちはこの機会に、これまでの歩みを次の世代に伝えたいと思います。ICW と世界 YWCA のパートナーシップの始まりは、私たちふたりの友情でした。2003 年に国連エイズ合同計画 (UNAIDS) の紹介で知り合いました。互いを信頼し、その信頼から互いのことを話し、関係を築きました。この関係が、私たちが率いていた ICW と世界 YWCA に及びました。当時 ICW の会長だったアリスが広い心で世界 YWCA を受け入れ、ICW のパートナーとしたのには先見の明がありました。当時、ポジティブの女性には主張できる場はほとんどなく、自らが HIV ポジティブであると公にすることは、非常に勇気の要る行為でした。世界 YWCA は、友情から協力関係への道を見出すに至り、ICW と意義のあるパートナーシップを結んだ初の女性団体となりました。このパートナーシップは ICW の歴史の中で画期的な動きでした。しかし残念ながら、予防の問題として扱う以外、世界の女性団体は HIV 対策に苦慮しています。これほど多くの女性が HIV に感染している背景、および HIV に感染している女性が直面する多くの複雑な問題への認識の欠如に一因があります。また、HIV に感染している女性同士が集まれる機会がなかったためでもあります。HIV に感染している女性は、自分自身や子どもに対する差別を非常に恐れ、自らが感染者であることを明かせないでいます。2003 年、世界 YWCA はこうした認識や機会の不足を解消しようと、世界各地の ICW スタッフや幹部の中から、ひとりのスタッフと 4 人の幹部を招き、オーストラリアで開かれた世界 YWCA 総会のさまざまなセッションで YWCA の代表と引きあわせ、話をしてもらいました。これを機に、世界 YWCA は HIV および AIDS を「国際女性サミット」の事前協議のテーマとし、ICW にこのサミットの共催を依頼しました。世界 YWCA はさらに、HIV ポジティブの女性が集まり主張する場を設けることを決め、ICW にフォーラムを主催してもらいたいと考えていました。しかし、人手に限界があることから ICW は、主催ではなく進行・調整役として世界 YWCA からの依頼を快く引き受けました。ですから、ICW のメンバーで、現在 ICW ヨーロッパ運営グループの代表を務めるソフィー・ディルミティス世界 YWCA が起用したことを ICW

は大変喜びました。ICW、世界 YWCA 両方を代表するフォーラム全体の調整の指揮を、世界 YWCA はディルミティスに任せました。HIV に感染している女性が世界に約 1,900 万人いるにも関わらず、ICW では人材においても資金においても限界があることは、大変残念なことです。

ICW と世界 YWCA のパートナーシップは、二人の女性の間生まれた信頼と堅実な協力関係から発展しました。信頼は財産であり、大切な社会資本です。人々が信頼を築けば、次にその信頼を引き継いで組織をつくることができます。この信頼に基づいて世界 YWCA と ICW は、人材、および女性と AIDS の分野で議論となっている情報を交換し、共同でキャンペーンをし、またそれぞれの行事に互いを招きました。私たちは連帯を深め、ともに変革のための力強い運動体になりました。

世界 YWCA と ICW とのパートナーシップが存在するのは、協働すれば女性はより強くなるということを私たちは知っているからです。私たちのリーダーシップが重要なのは、女性はもはや AIDS 蔓延の周辺部にはいないからです。今や、何百万という女性が AIDS あるいは HIV 蔓延の中心であり、また HIV の影響を強く受けながら、肉親や大家族を物質面、健康面、また精神面でケアしています。協働することが、HIV や AIDS の抑制に向けて、大胆に思考し、行動する助けとなります。パートナーシップ継続のために、世界 YWCA と ICW、二つの組織にできる実践的なことがあります。女性のための AIDS 対策資金の増大を協働して広く呼び掛けることです。女性に投資することの重要性を認識してもらうために、個人や地域社会、政府および企業の方針・習慣・姿勢・行動に影響を与えなくてはなりません。暴力・レイプ・子ども虐待・大人と未成年者とのセックス・近親相姦・一夫多妻・金銭と引き換えに男性が女性を搾取するといった問題に取り組むため、私たちは結束し、法的に、また倫理に基づいて行動を起こさなくてはなりません。私たちは、あらゆる資源を十分に活用し、資金が女性の生活向上に役立つよう説明責任を果たさなくてはなりません。

「国際女性サミット」の冒頭演説で、当時の総幹事として私、ムシンビ・カニョロはこう述べました。「ポジティブの女性によるリーダーシップはゆるぎないものです」世界 YWCA のスタッフと共に示した ICW とのパートナーシップ強化に努めるリーダーシップや、新たに就任したニャラザイ・グンボンズバンダ 世界 YWCA 新総幹事の温かい支援と熱意は、女性のリーダーシップによって達成可能な成果の模範です。「ポジティブ女性のフォーラム」のプログラム作成に参加した ICW のメンバー全てに私たちは感謝しています。全てパートナーシップのもつ力の証であり、HIV および AIDS 対策ほど女性のリーダーシップを必要としている問題はありません。私たちふたりが築き始めたささやかな基盤を増強し、世界 YWCA と ICW のリーダーたちが女性の声をできる限り広く届けてくれることを願っています。この報告書はそのための道筋を示します。

WORLD YWCA AND ICW — THE IMPACT OF POWERFUL PARTNERSHIP
Musimbi Kanyoro (PhD) and Alice Welbourn (PhD)

1. はじめに

2007年7月4日、ケニア、ナイロビのケニヤッタ国際会議センターで、HIVと共に生きる女性のための世界最大の会議が、世界YWCAと、「HIVおよびAIDSと共に生きる女性の国際コミュニティ」(International Community of women Living with HIV and AIDS、以下、ICW)との共催で開催されました。HIVおよびAIDSに関する「国際女性サミット」の一環として開かれた、この「ポジティブ女性のフォーラム」(Positive Women's Forum, PWF)には、世界各地から281人のHIVポジティブの女性が集まりました。世界各地のポジティブ女性のネットワークの多くが、HIVと共に生きる女性による、HIVと共に生きる女性のためのこのフォーラムの企画・開催に力を尽くしました。一日限りのこの集中プログラムで、HIVポジティブとしての体験の共有、ネットワークづくり、またパートナーシップ構築を経て、アドボカシーのためのアジェンダが作成されました。

「ポジティブ女性のフォーラム」は、多くの女性の活発なリーダーシップの成果であるのは言うまでもなく、発案は、HIVポジティブ女性へのエンパワメントを推進するムシンビ・カニョロ世界YWCA総幹事によってなされました。「ポジティブ女性のフォーラム」は「国際女性サミット」の付け足しとして開催されたものではありません。世界YWCAは、「ポジティブ女性のフォーラム」実現のために、時間とエネルギー、そして人的資源を投入してきました。

このフォーラムの参加者は、国際的な活動家や地域を拠点とするケア従事者、YWCAやICWなどの会員組織、HIVと共に生きる人々のネットワーク、信仰を基盤とする団体、そして、世界基金や国連と言った国際機関など広範囲にわたりました。また、若い女性や祖母、また、性産業で働く人々から国連職員にいたるまで、年齢も職業も異なる女性たちがこのフォーラムに集まりました。次の一覧表で、フォーラムへの参加状況を地域別に示しています。

地域	参加者数
アフリカ	170
アジア	10
カリブ海地域	7
ヨーロッパ	29
中南米	12
中東	3
北アメリカ	30
太平洋地域	8
合計	269

この報告書では、参加者および参加組織からの意見や感想をもとにポジティブ女性のフォーラムを振り返ります。また、フォーラムで得られた主要な成果を記録として残すこと、フォローアップや今後行われる同様の会議への提言を目的に作成されています。

2. HIV ポジティブの女性をとりまく状況

世界中で女性がさまざまな課題に直面する中、HIV と共に生きる女性は、(女性であるという)ジェンダーと HIV ポジティブであることの、二重の負担を負っています。強い偏見や差別のために、HIV ポジティブの女性の多くは、自らが HIV 感染者であることも、HIV に関する事柄も口にできません。このような状況の中で HIV ポジティブの女性は、命と健康を守るためには不可欠のサービスが受けられず、孤立しています。しかし、自ら HIV ポジティブであることを敢えて打ち明けようと望む女性たちのためなら、HIV ポジティブの女性はたいてい、自分が苦しい状況にありながらも自らもポジティブであることを明かし、資源と支援に限りがあっても HIV や AIDS への取り組みを続けます。

今回のようなフォーラムで他のポジティブの女性と出会う機会を得て、大きく心を動かされ、人生が変わるような体験をすることがあります。そうした集まりが唯一、女性にとってすぐに支援を受けることができ、互いに抱える問題を心おきなく話し合える機会なのです。こうしたフォーラムから、希望と生きる勇気が与えられます。というのは、HIV の蔓延を助長している、文化に根ざした規範や慣習に立ち向かい、ポジティブの女性たちが直面する孤独を和らげる支援体制を整え、保健 サービスや支援組織を発足させている、HIV ポジティブの仲間から学ぶことができるからです。

HIV ポジティブの女性が結集することで、アドボカシーに関する差し迫ったニーズを迅速に特定できます。多くの場合、いまだに実現されていない基本的な人権がアドボカシーの差し迫ったニーズだと特定されます。HIV ポジティブの女性の結集は、さまざまな方策を互いに考え、世界中のポジティブの女性たちのためになる変化を起こすネットワークを強化する機会になります。

「ポジティブ女性のフォーラム」は、「国際女性サミット」で非常に重要な役割を果たしました。当初からこのフォーラムの目的は、HIV ポジティブの女性が重要な問題を十分に話し合い、サミット参加に向けてポジティブの女性同士で計画する場を提供することでした。このようなフォーラムの開催には資金や人材、設備など運営の問題が大きく関わりますが、世界各地からの参加者を得て、フォーラムは、ポジティブ女性が互いに共通する課題を特定し、課題に取り組むために力を結集するための重要な場を提供しています。

3. 「ポジティブ女性のフォーラム」の目的

世界 YWCA と ICW は、ポジティブ女性のフォーラムの目的を次のように決めました。

1. HIV ポジティブの女性が行動計画を立案することのできるフォーラムとする。
2. HIV ポジティブの女性によるリーダーシップと、このリーダーシップが HIV および AIDS 対策にもたらす変化をはっきりと示す。特に、一般や地域社会、国、多国間、また国際レベルでの、HIV ポジティブの若い女性を含むアフリカ女性によるリーダーシップに重点を置く。
3. ネットワークづくりや計画実行のパートナーシップ構築を目的とするフォーラムを実施し、HIV および AIDS 対策の恩恵を社会の至るところ、特に HIV ポジティブの女性にもたらす。
4. HIV、AIDS、あるいはこの両方に関連する問題解決のため、また、社会のあらゆるレベルに変化を起こすことが求められている証拠を示すために、ポジティブ女性の力を結集する。

4. プログラムの概容

4.1 計画と事前協議

ポジティブの女性のための、ポジティブの女性によるフォーラムを開催することの重要性を認めて、世界YWCAは「ポジティブ女性のフォーラム」を共催しようとICWに呼びかけ、また、「ポジティブ女性のフォーラム」の計画と広報に参画してもらうために、ポジティブの女性の地域ネットワークをいくつか選びました。スタッフとしてフォーラムに関わったのは、HIV ポジティブの女性と世界YWCAのスタッフで、ともに、フォーラムの計画でICWと緊密に協力しました。

「ポジティブ女性のフォーラム」の準備段階において、世界の2,000人を超えるHIV ポジティブの女性と協議し、フォーラムを通じて取り組むべき5つの主要課題を設定しました。

次に挙げる項目が、フォーラムで取り上げるべき課題の基本となります。

1. 女性のリーダーシップと経済的エンパワメント
2. 偏見と差別
3. 「性と生殖に関する健康と権利」を含む人権
4. ジェンダーに基づく不平等を是正するアドボカシー
5. (ポジティブの女性への配慮ある) 手に届く治療・ケア・支援の利用

4.2 プログラムの構成

「ポジティブ女性のフォーラム」は、ムシンビ・カニョロ世界YWCA 総幹事の開会あいさつで始まりました。ICWの後援者であるアイルランド共和国元大統領のメアリー・ロビンソン、そしてHIVと共に生きるウガンダの若い女性、マーサ・ジュディス・ナイグウェが、フォーラム開会の基調講演を行いました。メアリー・ロビンソンは「ポジティブの女性はもはや蚊帳の外ではなく、まさに内側から自分たちの声を届けようとしています」と述べました。フォーラム冒頭のセッションには世界中からパネリストが集まり、HIV ポジティブの女性が直面する5つの主要課題について討議しました。この5つの分野に関する知識やスキルを身に着けるためのワークショップが、一日を通して催されました。この日の成果については、フォーラム本会議最終日に、国連エイズ合同計画(UNAIDS)のピーター・ピオット 事務局長およびICWと世界YWCAの代表列席のもと、講評が行われました。

4.3 各ワークショップのテーマ

さまざまなネットワークを通じて、フォーラムの期間中、5つの主要課題を扱うそれぞれのワークショップの進行役としてポジティブの女性が招かれました。世界中から幅広く個人や団体が確実に参加できるように、ふさわしい進行役やテーマが選ばれました。このフォーラムの成果の一つは、共通の問題を考えるワークショップを進行するために、各々考え方の異なる女性たちが集まったことです。これによって、グローバルな問題に取り組むために結集している女性たちの力が示されました。あるセッションでは、アメリカで投獄されていたアフリカ人の教師と、信仰を基盤とするグループのリーダーが二人で助け合いながら、偏見と差別に関するワークショップを進行しました。

「ポジティブ女性のフォーラム」開催期間中には、次の通り、合計 12 のワークショップが行われました。括弧内は、ワークショップを主催した団体名です。

- 体験を話す。自己決定の方法（ポジティブ女性たちの声）
- 女性、力、政治。会議の場で最高の提言ができるスキルを身につける(ICW と ICW アメリカ)
- ポジティブの女性のためのパブリック・スピーキング（HIV と共に生きる人々のアジア太平洋ネットワーク）
- 長期生存のための栄養と薬草(ハーブ)の使い方（The Centre）
- 行動のための HIV および AIDS と共に生きる人々による参画拡大(GIPA)（ICW）
- 女性に関連する治療上の課題のアドボカシー（カナダ治療行動協議会）
- HIV と共に生きることと母親であることを両立する（ICW）
- 偏見と差別に関する指標 政策とアドボカシーのための手段（国際養育計画連盟）
- 職場での権利の要求（UN+）
- 愛、セックス、節制（ICW）
- あらゆる状況下で偏見と差別に対処する（ICW アメリカ、世界教会協議会、ケニア HIV ポジティブの教師ネットワーク）
- 支援の力（ニュージーランド ポジティブ女性）

4.4 「変革を導く女性賞」

「変革を導く女性賞」授賞式では、資源にほとんど恵まれず危険にさらされながらも、地域社会における HIV および AIDS 対策に、類まれなリーダーシップを発揮した女性たちが称えられました。革新的な対処法とプログラムを通じて AIDS の蔓延を抑える取り組みに貢献している女性の功績を表彰するため、この賞は設けられました。この賞で最も重視されている選考基準は、HIV と AIDS の女性のプログラムへの関わり方の深さ、実質的な効果、コミュニティのエンパワメント、持続性、ジェンダーの平等、革新、そして、効果的なパートナーシップの構築です。国際エイズトラストのサンドラ・サーマン会長が議長を務め、12 人の委員から成る賞の選考委員会、受賞者 14 名を選び、「国際女性サミット」の冒頭で表彰しました。(参考資料 2 を参照)

5. HIV ポジティブの女性が抱える問題と課題

「ポジティブ女性のフォーラム」に先立ち、ポジティブの女性が直面している主要な問題を特定するために、(世界 YWCA は) 2,000 人を超える女性と協議しました。偏見や差別および人権、アドボカシー、手に届く治療やケアおよびサポート、リーダーシップ、経済的エンパワメントが主要な問題として取り上げられることになりました。この 5 つの分野に関し、本会議やワークショップで解決策が話し合われました。

5.1 女性のリーダーシップと経済的エンパワメント

「HIV と共に生きる女性の多くは、夫を亡くし、家族に見捨てられ、家から追い出されてしまいます。資源が限られ、経済支援が得られない中で、女性たちは自力で HIV に対処しなくてはなりません。中には、虐待を受けている女性もいます。このような状況では、地域の支援グループや収入を得られるようになるための活動が、女性たちにとっての救いです」

HIV ポジティブの女性は、HIV と共に生きる女性としての立場で、意思決定の場に臨みました。HIV ポジティブの女性の多くは、意思決定者に必要とされると考えられてきた資格(たとえば、学歴や職歴)を持ちません。意思決定の場に臨むには、能力の養成と相応の訓練が不可欠です。訓練を経て能力を習得していれば、HIV ポジティブの女性は議題や議事進行に臆することなく、意思決定の過程に十分参加できます。国際的アドボカシーに関わるようになってきた女性は、HIV ポジティブであることに関係なく誰も対等の立場で意思決定に参加するために、更に学びを深めていきます。HIV ポジティブの女性のニーズに応えるために、ポジティブの女性たちはこのようなフォーラムの開催を求めました。ポジティブの女性のリーダーシップは、公の場だけでなく、女性が確実に家庭の中で尊厳を保ち、一個人として尊重されるよう、私的な場でも発揮されています。

ドメスティックバイオレンス(DV)や、パートナーと安全なセックスができないことによる HIV や性感染症(STI)など、ポジティブの女性はしばしば危機的状況に置かれます。男性への経済的依存から、男性と別れ自活して家族を養うことが困難です。多くの場合、AIDS が原因の病気で配偶者を亡くした後、大半の女性は、土地・財産また住宅を男性と平等に相続することができません。HIV ポジティブの女性が自活できるだけの経済力をつけることが非常に重要な課題であると、「ポジティブ女性のフォーラム」F の事前協議で明らかになりました。ポジティブの女性がリーダーシップを身につける方策は十分整っていますが、ポジティブの女性の経済力強化はそれほど重視されてきませんでした。国が予算を組んで女性の経済力強化に取り組むこともほとんどないために、この課題は今後も放置される恐れがあります。

「ポジティブ女性のフォーラム」では、HIV ポジティブの女性にとっての連帯の大切さが確認され、これを通じて、HIV と共に生きる女性や少女への助言の大切さがうたえられました。生まれながらに HIV の感染者であり、生まれて初めての国際会議である「ポジティブ女性のフォーラム」で壇上に立った 15 歳のステファニの発言に、連帯や助言の大切さがはっきりとあらわれていました。助言や指導、またリソースが適切に得られると、若い女性がどのように力を発揮できるかを、ステファニは身を持って示しています。形式的にはなく、実質的にフォーラムに参加するためには、能力やスキルを身につけ、リソースを得る必要があります。

アメリカの団体であるウェルプロジェクトからフォーラムに参加した、ドーン・アヴェリット・ブリッジは、会議のオープニングで発言に立ち、HIV ポジティブの女性は互いにもっと寛容であるよう求めました。HIV ポジティブの女性が意思決定の場に招かれる、あるいは、発言の場を与えられると、それでリーダーシップがあると見なされますが、ドーンは、HIV ポジティブの女性たちの結束と連帯の力を強調しました。重要なのは個人の体験を話すことではなく、出自や社会経済的背景に関わらず、(HIV 感染によって)生活がどのように変化したのかということです。生活がどのように変化するかは、HIV ポジティブであるからこそ重要な問題です。ポジティブの女性は、地域社会が求めるものをよく理解したうえ先を見越して、エネルギーを活用、またリーダーシップを発揮し、他の HIV ポジティブの女性を意思決定の場に送り出すリーダーにならなくてはなりません。団結していれば、意思決定の場にはいない他の女性たちの問題を代弁することができます。ICW は実際、ポジティブの女性同士で助言が活発に行われるよう、女性二人を会合に送り出そうと資金の寄付を団体に願い出ていますが、資金提供が得られることはまれです。また、会議参加の経験の少ない若い女性が資金援助を受けて会合に出席すると、隅のほうで孤立していると感じることがよくあります。このような「形だけ」の参加では、若いポジティブの女性は多くの場合、意思決定の権限を持つ他のポジティブの女性の存在におじけづいてしまいます。こうした状況を回避するのは、ポジティブの女性だけではなく、ポジティブの女性に出席を依頼した女性の責任でもあります。

5.2 偏見と差別

「偏見と差別が生まれるのは、私たちがHIV感染者で、なおかつ女性だからです。HIV ポジティブであるがゆえにHIV ポジティブの女性が非難を受け、不名誉な烙印を押されたならば、それは偏見です。HIV ポジティブの女性が差別を受けたなら、それは、社会や個人による偏見や先入観の現れです」ⁱ

- HIV ポジティブの女性は、ありとあらゆる偏見や差別を経験します。偏見と差別は他の主要な問題に共通してみられます。
- 自らがHIV ポジティブであると他人に知られることに怯えながら多くの女性が毎日を生き、HIV ポジティブであることを明かすと拒絶され、孤立し、暴力を受け、国によっては生き埋めにされることもあります。
- HIV ポジティブであることを理由に、女性が石を投げつけられて亡くなる事件が起きた国もあります。
- AIDS が原因で夫を亡くし一人身になることは、多くの女性にとって「社会的な死」を意味します。一人身になるとは、夫を亡くすというだけでなく、社会における地位を失うことでもあり、地域の周辺に追いやられ、そこで非常に厳しい差別と偏見を経験します。

フォーラムを通じて、HIV ポジティブの女性は自分たちの生活に与えるさまざまな影響について互いに話し合いました。「出自や立場に関係なく、私たちは皆、世間に広がっている意識に影響を受けています」と参加者は述べます。オープニング会議でステファニは、先進国で生まれ育ちながら、HIV ポジティブとして経験したことを話しました。世界で最高水準の医療機関で治療が受けられる状況にありながら、ステファニは最高に手厚い支援を受けられる状況にあるわけではありません。

「医療が優れていることから、オーストラリアにいれば社会的にも恵まれていると、皆さんはお考えかも知れませんが。AIDS が初めてオーストラリアで確認された時、医療界も地域社会も、一早く効果的に対応しました。医療チームがすぐに動けるよう配置され、私たちの病院にも AIDS 病棟が設けられました。ある日ブロック遊びをしていると、『恐ろしい死の裏通り』で男性や女性、子どもを脅かしている『死神』のキャラクターを用いた予防広報キャンペーンが目に入りました。この『死神』はテレビ画面にたびたび登場し、その生々しい映像が今も記憶に残っています。この『死神』キャンペーンのあまりの恐ろしさから、地域社会では HIV に感染している人々を排除し、遠ざける動きが広がっていきました。今、私は明らかに他の女の子とは違っています。学校では HIV ポジティブであるということをひた隠し、差別や心ない言動に耐え、ネガティブの(HIV に感染していない)友だちに自分のことをどう打ち明けようか、また、HIV ポジティブであることが知れてしまうのではないかと、常につきまとう不安と向き合わなければならないのです。オーストラリアの 10 代の女の子としてごく普通に、たとえば、友だちの家に泊まりに行くにしても、パジャマと歯ブラシをかばんに詰めるだけでなく、それ以上に慎重に考えなくてはならないことがたくさんあります。HIV の治療薬を、友だちや友だちの家族の目に届かないようにしなくてはならないことが大問題なのです。私のような人間が今もこうして生きている、この現実そのものが、HIV と共に生きる人々は世界で最も強いことを示しています」



5.3 「性と生殖に関する健康と権利」を含む人権

「世界中で、女性は人権の獲得をめざして闘っています。とりわけ獲得が難しいのは、性に関する権利です。性に関する権利を定義、明記した国際条約はありません。女性の人権を全面的に尊重して初めて、性に関する権利は実現されます。HIV ポジティブの女性の権利を論じる場合には、性と生殖に関する権利が関連してくるのは当然です。しかし、これまでの経験からすると、健全なセックス、満足感、身の安全、また安全でないセックスに関する問題は議論に上りません。なぜでしょうか。おそらく、子どもをつくることに比べて、性生活や性的欲求をオープンに語ることははばかれるからでしょう。また、いまだに HIV ポジティブの女性はセックスを完全にやめるべきだという考えが、一部にあるからでしょう。あるいは、世の中で影響力を持つ勢力には、女性が性生活でイニシアティブをとることに不満があるからでしょう。HIV 感染者であるがゆえに私たちにとって、セックスや、女性の身体、また男性の支配や家庭内暴力から解放されたいという欲求について論じるのは、さらに困難です」ii

HIV ポジティブの女性の人権が侵害されている実例を、フォーラムの参加者が報告しました。

- 多くの国で入国の際に制限を受けます。入国制限を設けている国に渡航する際、HIV ポジティブの女性には、HIV に感染していることや、HIV 治療薬の所持を隠さなくてはならないというストレスが加わります。さらに、ビザ取得に加え、一部の国では HIV ポジティブを入国制限の条件としているため、HIV ポジティブであることで出入国が不可能になります。
- ある HIV ポジティブの女性は、帰国途中、黄熱病予防接種を受けていなかったために数日間隔離されました。黄熱病予防のワクチンは低濃度化されたウイルスで、このワクチンを接種すると HIV と共に生きる人々は病気にかかる可能性があるため、その女性は黄熱病予防注射を受けることができなかったのです。複数の団体がこの女性の解放を求め、やっとのことで女性は旅行を続けることができました。
- 多くの国で HIV の蔓延が犯罪と見なされ、女性が処罰されることもあります。感染源となった人とそれによって感染した人、また感染の時期を特定するのは、実際には不可能です。さらに、セックスの相手からの非難や暴力に対する不安から、自分が HIV に感染していることを明かすのを多くの女性は恐れています。
- 一部の国では、身柄を拘束された HIV ポジティブの女性は、隔離、投獄されます。HIV よりも C 型肝炎や結核の感染力のほうがはるかに強いにもかかわらず、その監獄には、C 型肝炎や結核を患っている被収容者が他の被収容者と一緒に収監されています。個人の隔離はいかなる場合でも、科学的に証明された医療上の理由に基づき、最大限人道的配慮をし、関係する人々に十分な説明のうえ、合意を経て行われるべきです。HIV と共に生きる人の隔離は、非科学的かつ非道です。
- 脆弱な立場にあつて、女性が人権を獲得するのはさらに困難です。紛争状態にある場合や、精神病患者収容施設、難民キャンプ、リハビリテーション施設に収容、または刑務所に収監されている場合、ポジティブの女性は、一層脆弱な状況に置かれます。人身売買によって性産業に送り込まれている女性が毎年何千人にもものぼることや、この女性たちが不法滞在者と見なされ、ケアも受けられないことを忘れないでください。

次に、性に関する権利とセックスの問題が提起されています。

- HIV ポジティブだと診断を受けたら、女性は HIV と共に生きることに適応しなくてはなりません。また女性の多くは、子を持つことができるのかどうかということはもちろんのこと、再びセックスできるのかどうか考えます。若い女性にとって、初めての性交渉というのは一大事ですが、生まれながら HIV ポジティブの女性に

としては、事はさらに複雑です。10代という多感な時期であるうえに、HIV ポジティブであることにも対処しなくてはならないために、一層複雑な状況に置かれます。

- HIV ポジティブの女性には、新しく人と出会うたびに HIV 感染について明かさなくてはならないという、別のストレスが加わります。HIV ポジティブであると明かしたことで、しばしば偏見や差別の対象になります。社会では往々にして、さまざまな側面で、特に、婚外の性交渉や離婚、配偶者以外との関係となると、男性よりも女性のほうが、決めつけられた見方をされる傾向にあります。HIV は、こうした倫理観をさらに鋭く女性や少女につきつめます。
- HIV の感染者と非感染者との関係をセロ・ディスコードナントの関係 (sero-discordant relationships) と言いますが、このように HIV に感染していないパートナーと交際している HIV ポジティブの女性がいます。多くの場合、こうした女性たちにとって、パートナーと安全なセックスについて話し合うのは困難です。パートナーとの合意に基づく安全なセックスとなると、経済力がなく、性と生殖に関する健康の権利が保障されていない女性たちのことがしばしば問題になります。しかし、高度な教育を受け経済力のある女性であっても、安全なセックスについてパートナーと話し合うのは容易ではありません。
- 女性は HIV ポジティブであることがいったん明らかになると、世間から性生活をやめるべきだと見なされ、また自分自身もそのように考えるようになります。しかし、なぜ性生活をやめるべきなのか、科学的根拠はありません。HIV に感染していないパートナーと性交渉を続ける一方、HIV ポジティブの女性はコンドームの使用によって、パートナーを HIV 感染から確実に守っています。セックスによる満足感が生活の基本の一つであることは確かです。また、つらいことがあった時など、パートナーとの親密な関係が、精神的な支えになることは知られています。セックスする、しないは別として、私たちは皆、性的な存在です。性的な存在ではないと装うことは、人間としての自分の存在を根本から否定することです。

HIV ポジティブの女性の**生殖に関する権利と選択**についての問題が、次のとおり提起されています。

- 妊娠中の女性は一般的に、国連世界保健機関(WHO)のガイドラインや米国大統領エイズ救済緊急計画(PEPFER) の支援に従って定められた、HIV 検査の対象になっています。しかし、国連エイズ合同計画の資金援助によって行なわれた調査が示しているように、計画外の妊娠を減らすことができる総合的な家族計画を実行すれば、低コストで母子感染を減少させることができます。
- 産科クリニックのスタッフから検査結果が HIV ポジティブであったと告げられる前に、HIV 検査に関して十分に、あるいはまったく情報を受けなかったと、多くの HIV ポジティブの女性が話しています。
- 母子感染予防が容易になってきたとは言え、HIV ポジティブの女性が子を持つことは難しく、多くの女性が出産に関する意思決定の助けになる情報を得るのは難しいと話しています。HIV ポジティブの女性が子を持つと決めた場合には、周産期感染(母体内での感染)を予防するための処置が受けられるだけで、女性の命を守るための十分な処置は施されず、生まれてきた子どもを孤児にしないための方策も講じられていません。子を望んだがゆえに偏見の対象になった女性もいれば、子を望まないがゆえに偏見の対象になる女性もいます。しかし、女性が子を持つ決意をすると次は、母乳のみで育児をするのかどうかについて判断を迫られます。母乳による育児こそ母親の証であると考えられている社会では、授乳についての決断は容易ではなく、また多くの場合、赤ちゃんのための人工ミルクや清潔な飲み水は手に入りません。
- 妊娠中に HIV 検査で陽性であることが判明すると、女性は家から追い出され、妊娠という人生の中で最も危険に曝されやすい時であるにも関わらず、HIV を家族に持ち込んだと責められ、場合によっては生ま

れてきた子の親権も財産も失うことがあります。

- HIV ポジティブの女性は、多くの場合、地域社会の人々やヘルスケアのスタッフから批判的な言動を受けます。妊娠中の女性には HIV 検査が義務づけられている国もあります。そして、自身の HIV 感染を知らずに妊娠したことで非難されます。自身が HIV に感染していることを助産師に打ち明けた後、ウガンダ出身の HIV ポジティブの若い女性が生んだ赤ちゃんは、ケアの放棄、あるいは不十分なケアが原因で死亡しました。HIV ポジティブの女性の多くは妊娠すると、診察を中止すると脅されて中絶や不妊手術を強制されます。また一方では、必要な時に中絶手術が施されない場合があります。
- もしも出産後に自分が死んだ場合、誰に子の面倒をみてもらうかあらかじめ考えておく必要があるという、厳しい現実と直面します。万が一、妊娠中や出産中に子が HIV に感染した場合、子が確実に治療を受けられるようにしておく必要があります。

5.4 ジェンダーの不平等を是正するアドボカシー

「程度の差こそあれ、女性が二級市民と見なされている男性優位の社会で、ジェンダーの不平等が生まれます。ジェンダーの不平等は、社会階層や、人種、宗教界の組織的構造とも密接に関連しています。ジェンダーの不平等は、女性の能力についての古い観念や性の対象として女性を見る時代遅れの考え方、また女性らしさや女性に「ふさわしい」役割といった従来の文化的観念にまでおよびます。挑発的な口笛を鳴らされる、レイプ、十分教育が受けられない、また賃金の格差などの犠牲を、女性は強いられます。HIV ポジティブの若い女性を含め、HIV ポジティブの女性は、繰り返し負担を負わされます。ジェンダーの不平等は、HIV 感染に基づく偏見や暴力と深く関わっているため、HIV ポジティブの女性は、(女性であり、かつ HIV ポジティブであることから) 二重の差別に直面します」ⁱⁱⁱ

- 基本的に社会では、男性と比べ女性は情報が得にくく、女性の生活に直接影響を与える意思決定からたびたび疎外されています。HIV ポジティブの女性は、夫が亡くなった場合、財産の所有権を相続できないことがあります。あるいは、法外な婚資を避けて正式な結婚をしなかったため、配偶者が亡くなると法的保護が受けられないことがあります。
- 経済的に自立できないことで、一夫多妻や女性器切除のような慣習に耐えざるを得ない HIV ポジティブの女性もいます。
- サハラ以南のアフリカなどでは、多くの女性が親の決めた相手と結婚し、相手は結婚と引き換えに金を払います。女性は結婚相手に何も言えず、コンドームの使用を頼むことは無論考えられません。

フォーラムの期間中、ICW による「HIV と共に生きる人々の参画拡大」や「女性、力、政治：会議の場で最高の提言ができるスキルを身につける」などのワークショップ、また、国連エイズ合同計画主催の「職場での権利の要求」ワークショップが開かれ、アドボカシーを通じた影響力のある政策が取り上げられました。ICW 南アフリカのグセビレ・ンドウロブ地域代表は、さまざまな権利、国際的義務および国際法の概要を説明し、このような権利や義務、法律も、基本的に HIV ポジティブの女性や HIV と共に生きる人々に関しては、侵害や違反が多いと述べています。アドボカシーに関してグセビレは、全ての女性のため、特に HIV ポジティブの女性のために確実に法律を適用、実施する立場にある政府や機関を監視していくよう、フォーラムの参加者に強く呼びかけました。

HIV と共に生きる人々のウクライナ全国ネットワークのイリナ・ボルシェクは、東ヨーロッパにおける静脈注射使用者が、必要な治療からいかに遠ざけられ、HIV ポジティブの女性と同じ権利が認められていないかについて述べました。

5.5 手に届く治療、ケア、支援へのアクセス

「手に届くヘルスケアや治療について知り、こうしたヘルスケアや治療がどこでも受けられることは、HIV ポジティブの女性にとって死活問題です。ところが、手に届くヘルスケアや治療の情報もアクセスも十分ではありません。政府やさまざまな組織も個人も皆、人々がどのような状況で生きているのかを理解し、真剣に考えるべきです。全ての女性が貧困、不平等、男性による暴力、また劣等感といった現実と直面しています。この現実はまだ、HIV ポジティブの女性が自分で生活をコントロールし、ヘルスケアを受け、また治療を続ける上での妨げとなります。ヘルスケア制度に内在する、あるいはヘルスケア制度の周辺にある差別や偏見が、さらに女性たちをヘルスケアから遠ざけています」iv

- 抗レトロウイルス薬(ARV) 治療 を含むヘルスケアを受けることは、多くの HIV ポジティブ女性にとってストレスとなります。治療の必要性に迫られている人々の大半の手に、抗レトロウイルス薬が届きません。感染率の上昇に伴い、治療薬不足が広がっています。豊かな国でさえ、製薬会社の治療薬生産が需要に追いつきません。治療が受けられない、あるいは親子感染のリスクを減少させる最低限以下の治療しか受けられない状況にある人々が数多くいます。
- 総合的な治療には、栄養のある食べ物、総合的な予防手段、家族計画、(子宮頸がんの原因となる可能性のある子宮頸部細胞の異常が、HIV ポジティブの女性に共通してみられることから) パブ塗抹試験による子宮頸がん早期検査法の実施、陰部ヘルペス治療用のアシクロビル、肝炎や結核、マラリアなど HIV ポジティブの女性がかかりやすい同時感染症の影響を抑える薬の投与を含む必要があります。
- 静脈注射使用者の女性にとって、治療を受けることはさらに困難が伴います。常習性についての知識が不十分な医療・ヘルスケア関係者の中には、薬物常習者は医療機関やヘルスケアで提供される治療法に忠実に従えないと考える人がいます。
- 抗レトロウイルス薬の効果が男性と女性とでどのように異なるのか、研究が十分進んでいるとは言えません。生殖機能だけでなく、HIV 治療薬が女性のホルモンや代謝、また一定の避妊法がホルモン補充治療などとどのように影響し合うのか、研究する必要があります。
- 脂肪代謝異常 (lipodystrophy) や 脂肪委縮症 (lipoatrophy) など、(抗レトロウイルス薬投与の副作用として起こる)脂肪異常分布の克服に、女性たちは特に苦慮しています。地域で他の人々や家族の世話を続けながら薬物治療の副作用を克服するのも、女性にとっては難題です。
- 治療が頓挫する、あるいは頓挫する可能性があるのには、さまざまな理由があります。
 - ✓ 毎日決まった時間に抗レトロウイルス薬の投与が受けられなければ、後退が起きる可能性があります。新しい薬物療法に切り替えると合併症を起こす恐れがあります。
 - ✓ 生涯続く治療には経済的問題が伴います。
 - ✓ HIV 検査を受けるのに抵抗感を持つパートナーが、ポジティブの女性の治療や薬に頼るため、このようなパートナーへの対処が必要です。パートナーが女性の治療や薬に頼るため、(減りが早い分)女性は頻繁に薬を受取り行かなければならず、果ては処方薬を断られてしまいます。

「ポジティブ女性のフォーラム」では予防、治療、ケア、また支援の充実に関してさまざまな問題が提起されました。女性たちは“Abstain, Be faithful and use Condoms prevention message”「ABC 予防メッセージ（節制、誠実、コンドームの使用）」について、このメッセージがなぜ女性の助けにならないかを述べました。人権を重視して HIV 予防策を講じるよう求めました。また、HIV 予防と治療、ケアと支援との関連性を明らかにし、予防や治療、ケア、支援に関する問題に総合的に取り組む保健プログラムを強く求めました。

女性用コンドームや殺菌剤の開発など、女性の側がコントロールする HIV 予防法についても話し合われました。フォーラムの終わりに報告に立った、カナダ AIDS 治療情報交換・HIV 治療インフォメーション理事のダリエン・テラーは次のように問題を提起しました。「節制や、一夫一婦制、また男性のコンドーム使用に頼ることも叶わない状況にありながら、何百万という女性が自分でコントロールできる HIV 予防法をいまだに実行できないのには驚きませんか」

ピーター・ピオット国連エイズ合同計画事務局長は、どんな予防策も言葉だけの机上の空論であれば失敗に終わると、出席していた最終セッションで強調しました。ピオット事務局長はまた、男性は女性のためになる予防策に協力し、あらゆるレベルで予防、治療、ケア、支援に関わるべきだと述べました。

治療、ケア、支援という主要テーマのもと、ダリエン・テラーはまた、「女性の健康は、健全な地域社会の基礎であるとの認識から、民間部門が女性の健康への支援で担える役割があることを理解し始めた」と述べました。この発言は、女性が忍耐強く治療が継続できるよう、世界中に薬物療法を確実に普及・持続させるために、企業は政府と協働することができることを示唆しています。一部の国では、薬不足のために女性は薬物療法を断念させられていると、参加者から報告がありました。第一、第二に選択される治療に対する抵抗がみられる状況もあるので、第三、第四の治療法のガイドライン作りを優先的に進めなくてはなりません。

マラリア、結核、肝炎、その他の性感染症など、HIV との同時感染症の治療を組み込んだ HIV 治療の実施を、参加者は求めました。これは、女性や若い人々に配慮した、性と生殖に関する総合的なヘルスケアも保健サービスに含めるべきだ、という提案でもあります。このサービスには周産期の感染予防が含まれ、母子感染にとどまらず、母体の健康維持への留意が求められます。こうしたヘルスケアは、常に HIV 予防および治療計画に従って実施しなくてはなりません。

6. 「ポジティブ女性のフォーラム」(PWF) の成果

6.1 成果

「ポジティブ女性のフォーラム」開催の計画が始まった段階で主催者は、フォーラムに求める成果と、「国際女性サミット」への HIV ポジティブの女性の参加拡大を明確に掲げました。この一日限りの「ポジティブ女性のフォーラム」と、「国際女性サミット」への HIV ポジティブの女性の参加拡大によって、次の目標が達成されたと、フォーラム参加者と主催者の事後評価で確認されました。

1. 「ポジティブ女性のフォーラム」を通じて、ポジティブの女性はリーダーシップを発揮し、また自身の内なる力として、自らがリーダーになることができました。同じ立場にある HIV ポジティブの姉妹と結束する力を実感して、多くの参加者が触発されたと述べています。特に、このフォーラムでは、地域社会で日常を送る HIV ポジティブの女性たちが発言し、日々の体験を共有する場を提供しました。この

ような機会は、リーダーシップを内面から湧き上がらせ、また、さまざまなリーダーシップのあり方に HIV ポジティブの女性たちが気付く助けとなりました。リーダーシップと言えば、意思決定の場に出られる、あるいは、強力な発言をする人物であることだと考えられがちです。しかし、多くの HIV ポジティブの女性のリーダーが成果を上げているのは、地域の差し迫ったニーズに応えようとする自身の情熱と献身を結実させたからであり、必ずしも非常にはつきり物が言える、あるいは高学歴だからではありません。フォーラムの終わりに進行役を依頼されたある参加者は、次のように話しています。「このような機会を与えてくださり、皆さんに感謝しています。まさにこの経験を通して初めて、人前で話す力をつけることができました。フォーラムの進行を依頼された時、そんなことが私にできるのか不安でした。でも、いざやってみると楽しい経験でした。どうもありがとうございました」このような参加者の能力向上、およびリーダーシップを内面化し自信を高めることは、当初から目標としていた成果のひとつであり、多くの参加者が達成しました。

2. ポジティブの女性の生活にとって重要な問題に取り組む

フォーラムの5つの主要テーマを世界中の HIV ポジティブの女性が認識し、また、フォーラムの中のワークショップを通じて、この主要テーマに取り組みました。唯一フォーラムの議題として十分に扱うことができなかつたのは、経済的エンパワメントについてです。この問題に取り組むには、確実に女性が経済的に自立し、安全な生活を選択できる立場を確保するための HIV ポジティブの女性による運動との密接な連携が必要です。残念ながら、女性の経済的エンパワメントに関するワークショップ開催の提案はなく、この問題を扱うワークショップ開催を積極的に進める時間も十分に確保できませんでした。

3. HIV ポジティブの女性の運動と結びついていない HIV ポジティブの女性を支援する

このフォーラムで得られた最大の成果の一つは、ネットワーク（結びつき）、共有、また支援の機会を提供することでした。これは、HIV ポジティブの女性の生活に不可欠です。世界各地にいる、自分と同じ HIV ポジティブの女性に会うために、今回初めて国を離れたという参加者もいました。こうして、ポジティブの女性は、それぞれが HIV からどのように影響を受けているのかをよく知り、HIV ポジティブの女性の世界的運動と結び付くことができました。

4. このフォーラムを通じて、HIV ポジティブの女性の運動をより広範な女性の運動に統合する

この点において、「ポジティブ女性のフォーラム」と「国際女性サミット」は、大きく発展しました。特に、世界最大の女性と少女の運動体のひとつである YWCA に HIV ポジティブの女性の運動を統合させることができました。ICW 元会長のアリス・ウェルボーンが今回のサミットで発言したように、4 年前にブリスベンで行われた「国際女性サミット」では、HIV ポジティブであることを公表した女性の割合は、出席者 200 人に対してわずか 1 人であり、HIV と AIDS についても殆ど扱われませんでした。しかし、対照的に今回の「国際女性サミット」では、HIV ポジティブであることを公表している女性が出席者の 3 分の 1 を占め、またサミット全体で HIV や AIDS が世界の女性や少女に与えている影響に重点が置かれました。サミットを終えて参加者が帰国したのちも、ICW と YWCA との連携が続いているとの報告が定期的に届きます。進行中の取組みに必要なのは、ICW と YWCA が連携を強化・継続し、HIV ポジティブの女性や女性の抱える問題を、より広範な運動のリーダーシップおよび取り組むべき課題の中に確実に統合することです。今回の「ポジティブ女性のフォーラム」は、この目標達成に向けて大きな一歩を踏み出しました。

「ポジティブ女性のフォーラム」において得られた、目標に叶った成果に加え、HIV ポジティブの女性の参加に関して「ポジティブ女性のフォーラム」と「国際女性サミット」を通じ、数多くの重要な成果が生まれました。「ポジティブ女性のフォーラム」と「国際女性サミット」終了後の評価から、次の成果が明らかになりました。

- **世界中から集まった 300 人近いポジティブの女性たちが「ポジティブ女性のフォーラム」を通じ、HIV ポジティブの女性のための史上最大の国際会議で結束することができました。**ナイロビで行われたこの「ポジティブ女性のフォーラム」に先立ち、2003 年、ウガンダでポジティブの人々のための会議の一環として、当時で最大のポジティブの女性のための会合が開かれました。3 時間にわたり行われたこの地域会合には、ポジティブの女性 100 人が集まりました。今回のナイロビでの「ポジティブ女性のフォーラム」は、HIV ポジティブの女性のための、HIV ポジティブの女性による独自の会合としては最大の国際会議です。
- **「ポジティブ女性のフォーラム」は、HIV ポジティブの女性に、アドボカシーの共通の基盤づくりという目標に向かって互いに体験を共有する機会を生み出しました。**時を共に過ごし、互いの体験を共有して初めて、個人的体験が組織としての方針に発展します。このようなプロセスを経ることは、将来のアドボカシーと提言の基盤となる共通の問題を特定するのに役立ちます。「ポジティブ女性のフォーラム」を振り返り、ダリエン・テラーがフォーラムの締めくくりとして次のように述べました。「今日一日、一人ひとりのさまざまな体験を共有しました。これは、自分たちの生活や問題を話し合う機会が HIV ポジティブの女性たちに与えられれば、いつでも可能なことです。“体験の共有はともかく、行動しないのか？ このフォーラムの次のステップはあるのか？”と、疑問を持つ人がいるかも知れません。しかし、私たちが互いの体験を共有することそれ自体が意義のある行動であり、行動と提言への第一歩なのです」
- **「国際女性サミット」全体に HIV ポジティブの女性たちの声が届き、これによって、政策立案者や、指導者、活動家といった幅広い参加者の間で、HIV と共に生きる女性が直面する問題への意識が高まりました。**このサミット全体を通じ、「ポジティブ女性のフォーラム」だけでなく全ての討論やセッションで、HIV ポジティブの女性はリーダーシップを発揮しました。さらに重要なのは、地域社会の女性としての視点が「国際女性サミット」と「ポジティブ女性のフォーラム」の両方で明確になり、HIV と共に生きる女性が直面する日常の現実が浮き彫りになったことです。HIV ポジティブの女性だけが集まって互いに共通する問題を話し合う場を持つことが大切であったと同時に、HIV と共に生きる女性が直面している共通の問題について、参加者全てが学ぶ機会を持てたことも同様に大切でした。この目標達成には、YWCA の北ヨーロッパ代表のような各参加者から寄せられた「ポジティブ女性のフォーラム」に対する意見や感想が助けになっています。「『国際女性サミット』でこれほど心が動いたことはありませんでした。今回のサミットに参加するまで、HIV や AIDS が世界中の女性にとって、とてつもなく大きな問題であることを全く理解していませんでした。非常に多くのポジティブの女性と実際に出会い、彼女たちの発言を聞くことができたのは、とても貴重な出来事です。これは、この先決して忘れることのない、すばらしくポジティブ（前向き）な経験です」



6.2 課題

「ポジティブ女性のフォーラム」での達成を目指していた目標のうち、運営上の問題から二つが達成できませんでした。その課題を次の通り列挙します。

1. 拡大サミットに提言を出すこと

「ポジティブ女性のフォーラム」の規模がこれまでに大きく、世界各地のHIV ポジティブの女性がこれほど多く集まったことがないために、一日のフォーラムで扱うにはテーマが絞りきれませんでした。事前に行った議事日程の計画どおりに各グループから提言を得るまでに至りませんでした。定期的な会合を持って HIV ポジティブの女性に共通する課題が特定できなくなったことで、HIV ポジティブの女性が会合の脇に置かれ、女性たちのニーズや優先課題に関する明確な政策提言を確定することができずに終わってしまいました。特に、将来の AIDS 対策において、HIV ポジティブの女性の参加が不可欠であるとするなら、今回のような会合から得られる将来の政策や行動の指針となる教訓をもとに、この「ポジティブ女性のフォーラム」のような会合を継続する必要があります。カナダ治療行動協議会の ルイス・ビンダーが「国際女性サミット」で述べたとおり、“Nothing about us ▪ without us!”（主役は私たち）です。

2. 特に地域レベルで、より協調した対策を促進するために、HIV ポジティブの女性のための行動計画を作成すること

これを目標としていましたが達成できませんでした。おそらく、一日だけの会合で達成するには、すこし欲張った目標だったかも知れません。こうした目標を果たすには、もっと時間を取り、地域別に討論する機会を別の日に設ける必要があるでしょう。しかし、HIV ポジティブの女性は 2007 ナイロビ行動計画に署名し採択し、計画案づくりに移りました。これは、さまざまな協力者・団体に向けた明確なアドボカシーの文言づくりに向けた重要な一歩です。（参考1を参照）

7. 参加者の意見や感想

「ポジティブ女性のフォーラム」の参加者全員に評価表への記入を求めました。集まった評価表をまとめた結果、ほとんどの女性の間で一致していたのは、このフォーラムから新しい知識を得たということです。自分の状況に合わせて、この知識を活用することができそうだといいます。各セッションは参加型で、セッションを通じて HIV ポジティブの女性が互いに結び付き、ネットワークを作ると同時に、スキルと知識を身につけることができたということが、参加者の意見や感想からはっきりしました。参加女性の大多数にとって、ネットワークづくり、パートナーシップの構築、経験の共有は、フォーラム参加への動機付けであり、参加によって得た収穫でした。

若い女性を育成し、また助言を受けながらトレーニングできる時間や機会がもっとフォーラムの中で設けられていれば、「ポジティブ女性のフォーラム」はもっと効果的なものになっていたであろうという意見もあります。HIV ポジティブの女性が意思決定の場に臨むことの大切さ、また、あらゆるレベルで HIV ポジティブの女性の声を届ける場をつくることの大切さを、参加者は再認識しました。ある参加者は次のように述べています。「成果を出すためには、すべきことがたくさんあります。あらゆるレベルで、アドボカシーと結束を強める必要があります。問題は十分明らかになっているのですから、それを行動に移すかどうかは私たち次第です。しかし、多くの

貧しい国々では、明確な対策を立てる段階には至っていません。地域社会の中で、自分の意志が弱く、自己中心的だったということに気付きました。他のポジティブの女性たちに呼びかけ、彼女たちの声も合わせて届けていく必要があります」

参加者の意見や感想には、「ポジティブ女性のフォーラム」で共に過ごせる時間が短かすぎたというコメントが数多くみられました。「時間があまりに短い上、参加者が多く、皆とても真面目です。話す言語もさまざまでした。雰囲気は硬く感じられました。発言はどれも貴重です。ひとりひとりの発言には時間が必要です」 ポジティブの女性には話し合うべき問題が数多くあり、アドボカシーのアジェンダや行動計画を練るために特別の時間と、継続的に会合を持つ機会が必要です。

8. 結び

HIV の存在は、秘密主義、孤独、そして無知を生む原因となり、ジェンダーの不平等や厳しい貧困、女性に対する暴力が減らなければ、女性や少女の感染率は上昇を続けるでしょう。HIV と共に生きる女性は、こうした問題の一部分ではなく、解決策の中心にいるのです。

AIDS の蔓延が私たちに突きつけている難題に対処するため、HIV ポジティブの女性たちがポジティブに（前向きに）生き、地域社会で活動し、政府や市民団体と協働していることを、「ポジティブ女性のフォーラム」は、はっきりと示しました。いくつもの果たすべき義務、限られた資金、ジェンダーに基づく暴力にも関わらず、自らの健康だけでなく、自分が世話をしている人々の健康を保つために最大限努力しています。HIV ポジティブであることをパートナーにいつ打ち明けるかを決め、また公に（HIV ポジティブとして）アドボカシーの活動に関わることで子どもたちが偏見と差別の対象となることを覚悟するなど、HIV ポジティブの女性は厳しく困難な決断を迫られることがあります。「ポジティブ女性のフォーラム」と「国際女性サミット」で取り上げた数々のこうした難題は、HIV や AIDS と共に生きることの一部です。単純な解決法はありませんが、互いに難題を共有することで、その重荷から解放され、互いの経験に共通点を見出せるでしょう。助言を与え合う関係を築くことで、HIV ポジティブの女性リーダーたちは先頭に立って仲間を触発することができるでしょう。「ポジティブ女性のフォーラム」のような会合を通じて、HIV ポジティブの女性は、自分たちが抱えている課題を変革の機会に変える政策を構築できるのです。

アイルランド共和国元大統領のメアリー・ロビンソンに同行したミシェル・ボローニャは、フォーラムについて次のように語っています。

「互いを支え、より良い世界のために、拳を振って声を上げる女性たちの力には気持ちを大きく揺さぶられました。参加した女性たちともっと一緒にいたい気持ちで一杯です。一緒にいることで心が晴れやかになり、心強く、前向きになれました。これは間違いなく、最も優れた女性のリーダーシップが発揮された証です」

i , ii , iii , iv ICW and World YWCA joint statement papers at the IWS (IWS における ICW—世界 YWCA 共同声明文書)

HIV および AIDS と女性のリーダーシップ

ナイロビ 2007 行動要綱

私たちは、女性や少女の人権を主張し、世界に蔓延する AIDS の問題と将来に効果的に対応していくためには、女性や少女の人権を実現していくことが大切だと考えます。私たちは、世界中の女性や少女の生活、特に、HIV に感染したり AIDS の影響を受けている女性や少女の生活を変えるべく、コミュニティに変革を導くことを約束します。私たちは、この世界的な HIV や AIDS の蔓延を食い止めるには、女性のリーダーシップが必要だと信じます。

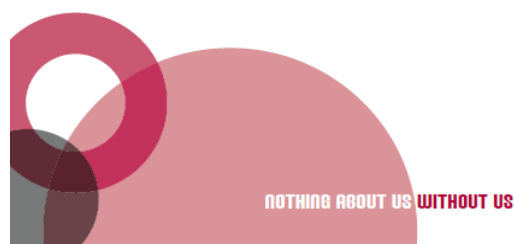
ナイロビ 2007 行動要綱は、以前からこの問題に取り組んでいた諸団体の行動指針(1)や、「Global Coalition on Women and AIDS(女性と AIDS に関するグローバル連合)」のメンバーによって定められた活動方針などをもとにしています。こうした行動指針や活動方針の中核となっているのは、女性や少女のリーダーシップ力を高めること、女性や少女の人権を守ること、意思決定の場に女性が平等に参画できること、女性のための財源、資源を増やしていくことです。

(1) おもな参考文章は、ICW's 12 statements 1992, the Barcelona Bill of Rights 2002, the NGO Code of Conduct, the Canadian Blueprint document of 2006 and the Johannesburg on HIV&AIDS and Women's and Girls Rights in Africa, 2006, With Women World wide Compact on End HIV&AIDS, 2006, and the Panama Declaration of 2006。詳しくは、世界 YWCA のホームページをご参照ください。

リーダーシップを発揮し、女性運動として強く団結することで、私たちが目指す変革を世界に導くことは可能です。私たちは、HIV 感染の有無・年齢・宗教・人種・性別・性的指向・障がい・民族の違いによらず連帯します。それは私たちが、自分自身・家族、そして社会全体を考えているからです。

私たちは女性や少女、特に、HIV に感染し AIDS の影響を受けている女性や少女のために変革を生み出し、持続することを誓います。彼女たちの人権が守られる社会づくりを目指します。私たち一人ひとりの思い・言葉・行動を通して、また、世界的な女性運動の一環として、家族・友達・同僚・宗教団体・社会などと協力することによって、変革を達成します。

私たちは、世界中の女性や少女、特に HIV に感染していたり AIDS の影響を受けている女性や少女の知識や経験を基に、鍵となる 10 の分野において変革を導く行動を見出しました。変革のための 10 の項目は；



1. HIV と AIDS に向き合うことができる女性と少女のリーダーシップを養い、差別と偏見に立ち向かい、すべての女性と少女、特に HIV に感染し影響を受けている女性や少女と連帯し支援する

- 自らの認識不足や恐れに立ち向かい、HIV への見方を改めると同時に、このような姿勢を周囲にも促す
- HIV に感染している女性に敬意をもって接し、アドボカシーへの結束を呼びかける。HIV と共に生きる女性たちから支援を求め、差別的な慣習や政策をなくすために HIV について学び認識や行動を改める
- HIV に感染している家族や友人・同僚が、差別的で、冷たく、心ない周囲の態度に傷ついている時には、いつでも支援の手を差し伸べる
- 日常生活やコミュニティの中で HIV および AIDS に対処できるよう、女性や少女に教育・研修を行う
- HIV からいかに私たちが影響を受けているのか理解を深める教育、また HIV に感染し影響を受けている女性や少女に対する差別をなくすための教育を支援する
- さまざまな垣根を越えて結束し、平等を求め、女性や少女への正義を実現する取り組みにコミュニティ全体を巻き込む
- すべての女性や少女、特に HIV に感染している女性にとって、公正かつ思いやりある代弁者になるよう宗教界に訴える
- ジェンダーや HIV の感染を根拠とする差別を違法とするよう、ロビー活動をする

2. HIV に感染し影響を受けている女性たちの意思決定の場への有意義な参加を確実にし、自己決定権を尊重し、私たちの HIV と AIDS に関する諸施策の発展と立案、そして決定機関への参加を可能にする

- HIV に感染している女性や少女、あるいは私たちに、発言する覚悟や自らの HIV 感染を打ち明ける覚悟ができたなら、HIV に感染している女性や少女に支援の手を差し伸べる
- HIV に感染している女性や少女、YWCA や HIV 問題に取り組んでいる団体および取り組むべき課題を、オープンで互いを尊重しながら、有意義で持続可能な方法で、幅広い女性運動の中に組み込む
- 感染者同士の支え合いや、治療に関する知識の共有、またその他のケアについて、HIV に感染している女性や少女向けに研修を活発に行い、感染者を正規のスタッフとして積極的に起用する
- HIV に感染している女性や少女たちの視点や声を、私たちのコミュニティの中から地域や国のメディアを通じて広く伝える
- 国レベルでの AIDS 問題担当機関や AIDS 対策の立案に、HIV に感染している女性たちが主体的に参画できるよう働きかける

3. 女性と少女のジェンダーの平等と人権を促進する。法律で権利を守り、権利を擁護すべき人々を教育し、女性たちが自分達の権利を主張できるよう支援する

- 性別役割 (gender role) や責任に関する自らの考え方・言葉遣い・行動を吟味し、かつ、男女を差別するような周囲の姿勢や振る舞いに異議を唱える
- すべての女性に人権があることを認める。また、元服役囚あるいは現在服役中の女性・先住民の女性・心身が不自由な女性・薬物常習経験のある女性・公教育を受けていない女性・移民女性・貧困女性・性産業に従事している女性に対する差別的な法律や慣習をなくす
- 女性へのプログラムの成果を理解することで、ジェンダーの観点 (gender perspective) を私たちの活動で生かす。プログラムに参加したすべての女性を動員し、性別によらない (ジェンダーの公正に基づく) プログ

ラムの管理・評価システムを組み込む

- ジェンダーの不正が男性や少年にとっても生活にマイナスであると認識し、女性や少女に対する考え方や接し方を見直し、またジェンダーの平等が私たちすべての利益であると理解できるよう、**男性や少年とのパートナーシップ**を深める
- ジェンダーの平等や女性の人権を守る国際的合意の**実施**と、呼びかけ法によりジェンダーの平等や女性の人権を護ることをロビー活動により訴える
- 警察・裁判官・弁護士・福祉サービス提供者・公務員・コミュニティのリーダーに向け、法律、また彼らが果たすべき法的責任に関する**研修**を積極的に勧める
- 女性が自らの権利を主張できるよう、女性のための法的保護などさまざまな支援を推進する
- 私たちが主体的に関わる各団体の中に根強く残る、ジェンダーの構造的不平等に立ち向かう

4. 女性や少女の身体的・性的・精神的な安全と安心を確実にし、いかなる暴力からも解放されて過ごせる社会をつくる。 そのためには、男性や少年たちとも広く協力する

- コミュニティや世界各地で起きている**暴力や紛争**が女性や少女に与える影響について、周囲と共に私たちも学ぶ
- 暴力に耐えぬいた女性を支える組織の活動に、時間あるいは資源を**自発的に提供**し、女性に対する虐待をテーマとする催しを支援する
- 女性・男性・少女・少年が自尊心を養い、**健全な人間関係を築き**、また、人間関係の中で生じる恐れがある暴力の連鎖について学べるプログラムを積極的に実施する
- 他の女性や少女と互いを**尊重**する関係を深め、女性によるさまざまな社会的功績をたたえる
- 女性や子どもを支配するような力に基づく**関係**に立ち向かう
- **暴力をふるう張本人**が、怒りを抑え、暴力行為をやめられるプログラムを支援する
- 小型の武器の拡散により女性と子どもたちを危険にさらし、無実の市民たちを巻き込み、レイプをも武器となる**紛争**の終焉を訴え、**平和**を広める
- 自分は虐待されるべきではないこと、他者の助けを求められること、また身の安全を取り戻す**勇気**が自分にはあるということを忘れない

5. すべての女性と少女の性と生殖に関する健康と権利の促進を図る。 これには、すべての女性に対する母性保護、HIV やその他の性感染症への感染を最小限に止めるための安全な処置、女性主導の HIV 感染予防法の普及などが含まれる。

- 自らの**身体的・性的・精神的健康**に気を配る
- HIV や他の性感染症の**検査**を受け、自分とパートナーの健康を守る
- 男女双方によるコンドームの使用や最新の医療、また、健全な関係を築く上での公平な役割やコミュニケーションスキルなど、**HIV に対する効果的予防策**について情報を皆で共有する
- 男女双方によるコンドームの使用およびコンドーム使用の義務づけなど、生命を守る方策を世界中の女性が確実に利用できるようにする
- 女性のための予防策と**科学的根拠に基づく被害軽減プログラム**を推進する
- 開発中の**殺菌剤**や**ワクチン**について自ら知識を獲得し、HIV に感染しているかどうかに関わらず、インフォ

ームド・コンセントに基づく治験参加をすべての女性に保証する

- HIV に感染しているかどうかに関わらず、すべての女性に**母性保護**の権利を保障する
- HIV を感染させる行為、または感染に関連する行為を**犯罪とする**法の立案に対抗する
- 個々の文化に配慮した上で、**人権**を基本とする教育や介入を行う

6. 女性や少女の教育・経済的安定・資源の利用、および**不動産の所有・相続**に対する女性や少女の権利を保障する

- すべての少女と少年への**初等・中等教育**の普及のためロビー活動をし、中途退学者には希望すれば代替の教育機関で学べるよう支援する
- 女性や少女、特に HIV に感染している、または影響を受けている女性たちが**経済活動**を通じて自立できるよう、**技術**を構築する
- 女性や少女が**融資**を受け、また**資源**を手にするチャンスを広げるプログラムを活発化する
- 女性による**無償**の労働が各国の**経済**に大きく貢献していることを広く知らせ、また女性による賃金労働を積極的に支援する
- **貧困**とジェンダーとの関連、またこの関連と暴力や HIV 感染との関連について認識を高める
- **土地・資産・住居**に関する権利や慣例を女性が(男性と)平等に有すること、特に**相続権**を認めるよう、各政府に請願する
- **貧困の軽減**と公正な貿易の推進を各政府・国際機関、また民間部門に強く求める
- HIV と共に生きる人々に対する**雇用**における差別や、HIV と共に生きる人々から提供される商品やサービスに対する不当な扱いに抗議する

7. HIV に感染した、また HIV や AIDS の影響を受けている女性や少女が**利用しやすいサービス**(安全な自発的検査・治療・支援など)を**拡大**する。また、**コミュニティレベル**での自発的検査も促進していく

- 自ら適切な**医療**を求め、また、HIV と共に生きる苦難に日々直面している人がいたら、同じように適切な医療を求める支援をする
- それぞれのニーズに応じ、女性や少女のために、食糧や清潔な水・住まい、また栄養のある食事を確保し、治療や治療に関する知識・健康管理(ヘルスケア)を提供する**取り組み**を支援する
- コミュニティにおいて自発的検査への**意識**を高め、**検査前と検査後のカウンセリング**や**検査**は自らの**選択**で**可能**であることを知らせる。これにより、女性、特に妊娠中の女性にとって検査による負担が軽減される
- **乳幼児検診**の普及を促進し、子どもの健康の増進と母親の身体的・精神的負担を軽減する
- 検査や治療・ケア・支援を、女性や少女により**利用しやすく**、**経済的負担**にならず、**安全で持続的かつ効果的に**実施するために;
 - A 健康管理(ヘルスケア)の専門家は、**互いを尊重し、あるがままに受け容れる**ことのできる強い絆を女性や少女、特に HIV に感染している女性たちと深める
 - B 検査・治療プログラムの立案から実施・モニタリング・評価まで、HIV に感染している女性に関わってもらう
 - C 結核や肝炎・マラリア・疱疹といった同時感染の治療薬も含み、HIV に感染している女性や子どものニーズに、よりの確に応えていく研究への投資増大を**製薬会社**に働きかける

- D 特に HIV と AIDS の影響が女性に大きく偏っている国で、治療薬が公平に女性に**届けられる**よう、政府や企業・金融機関に働きかける
- E 託児所や交通機関の利用、血液検査にかかる費用など、関連コストを考慮して、健康管理(ヘルスケア)の受診料を**適正に設定**する
- 感染者をケアする責任を負っている介護者への支援を拡大する

8. 実情に合わせ AIDS 対策の見直しを行い、感染拡大予防策の実施やすでに HIV に感染した人々への治療や支援に力を入れることで、若い女性や子どもの人権を広める

- すべての子どもを私たちのケアによって守り、また子どもたちが身体的・精神的、また性的虐待から自らを守るために必要としている適切な情報、ケアそして愛情を子どもたちに確実に届ける
- すべての子どもたちが法的**保護**を受けられるよう、また子どもたちが健康で幸せで生き続けるために必要な医療を受けられるようロビー活動をする
- 子どもの**人身取引**と性産業への従事の終焉を働きかける
- 健全な性や生殖とその権利について、HIV などの性感染症から**自らを守り**、また他人への感染を防ぐ方法、さらに性行為によって自分が被る危険を予測する方法について、若い女性や少女に可能な限りを尽くして情報を提供する
- 若い男女が健全な関係を築き、交渉力を養い、**自信**をつけ、コミュニケーション力を高めるための、偏見を排した方法による訓練を広める。かつ HIV と AIDS をめぐる困難な課題を共に考える機会を提供する
- 若い女性のニーズに応えるためのプログラムの立案・実施・評価に若い女性の主体的な**参画**を推進する
- 学校や仲間同士で、HIV 感染者に対する**汚名や差別**に立ち向かい、汚名や差別をなくすための知識や方法を若い女性と男性が身に付けられるプログラムを開始する

9. HIV と AIDS の問題の変革の担い手となる女性たちを支援するために、より多くの資源が必要であることを広く知らせる。一方で、利用価値のある財源を確保していく

- 女性や少女のためのプログラムへの資源提供を増大するよう、政府や支援者、また、さまざまな機関に働きかける
- 女性や少女のためのプログラムにすでに配分されている資源を有効に活用し、プログラムの**説明責任**を果たす
- 特に組織および財政の強化、アドボカシーやリーダーシップにおいて、変革を導くための情報やスキル、また**研修**の場を女性に提供する
- 女性同士で助言しあい、知識を共有し、互いに**触発**し、励ましあって、私たちには現状を変える力があると信念をもつ
- HIV および AIDS の取り組みで変革を導いている組織に、私たちが今持っている資源で**貢献**する
- 女性や少女の生活を変革するための**資源**を確保する

10. 国の政治・立法・司法機関の高官などを含む、社会のあらゆるレベルにおいて、女性の参画・エンパワメント・リーダーシップを促進させる

- 真心をもって活動し、自分以外の女性、特に HIV に感染した、あるいは影響を受けている女性たちを支えるリーダーとなるよう努力し、明白な説明責任を果たし、変革の機会をとらえる
- 女性や少女、特に HIV に感染した、あるいは影響を受けている女性たちの声や考えに耳を傾け、尊重されるようにする。彼女たちが抱える問題への対応が十分でない場合には、私たちが声をあげる
- 権限や影響力のある役職に女性を推薦し、その女性候補を支援する
- 意思決定機関に女性が全面的に参画できるようにする方策、たとえば託児施設の利用を後押しするなど家族に配慮した方策を推進する
- 公のあらゆる意思決定の場で、女性が(男性と)公平に代表を務めることを実現するよう政府に働きかける

私たちが行動を起こすことで世界は変わります。私たちは、特に HIV に感染、または HIV や AIDS の影響を受けている世界中の女性や少女に目をむけ、これらの 10 の目標を実現していくことを誓います。

HIV や AIDS の影響を受けている女性、少女として、私たち自身が世界を変える存在になることは可能です。

世界 YWCA 国際女性会議「HIV および AIDS における女性のリーダーシップ」

2007 年 7 月 7 日 ナイロビにて





私たちのことは、私たちが —「ポジティブ女性のフォーラム」報告
翻訳・編集／日本 YWCA 発行／日本 YWCA 2009 年
〒106-0008 東京都新宿区三栄町 6 番地 12 2 階
TEL: 03-5367-1872 FAX: 03-5367-1873
E-mail: office-japan@ywca.or.jp



World YWCA
16, Ancienne-Route
1218 Grand-Saconnex
Geneva, Switzerland
Tel : +41 22 929 60 40 | Fax +41 22 929 60 44
Email : worldoffice@worldywca.org
www.worldywca.org



International Community of Women Living with HIV and AIDS
Unit 6, Building 1
Canonbury Yard
190a New North Road
London, United Kingdom, N1 7BJ
Tel: +44 20 7704 0606 | Fax: +44 20 7704 8070
Email: infoicw.org
www.icw.org

著作権は世界 YWCA にあります。無断の記事転用を禁じます。